

(平成23年5月分)

部 門	市況の概要
野 菜	5月期の野菜の入荷状況は、根菜類では、ダイコンが作柄良好で、前年同期並みとなる一方、西洋ニンジンでは、主力産地の低温、干ばつの影響から入荷減となった。葉菜類では、多くの品目で作柄良好であったことから、入荷前年並み若しくは入荷増となった。果菜類では、キュウリ、ナス、ピーマンで、上旬は、入荷増となったが、中旬以降は、曇天の影響から入荷減となった。月全体では、キュウリ、ナスでは、入荷前年並み、ピーマンでは、入荷増となった。トマトでは、産地により作柄が異なり、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。土物類では、バレイショで、前年が著しい入荷減であったことから入荷増となった。一方、タマネギは、新物が作柄良好で入荷増となったものの、北海道の冷蔵物の入荷が少なく全体では、入荷減となった。野菜全体の入荷量は、前年同期を3%上回った。 価格は、多くの品目で前年単価高であったこと、また、業務・加工需要の低迷により、前年同期を11%下回った。 品目別には、バレイショが入荷増の単価高、キャベツ、レタス、ピーマンが入荷増の単価安、キュウリが入荷並の単価高、長ダイコン、ハクサイ、ナス、トマト、タマネギが入荷並の単価安、西洋ニンジンが入荷減の単価高、ハウレンソウが入荷減の単価並となった。 根菜類は、入荷が前年並み、価格は7%安となった。 葉菜類は、入荷が4%増加し、価格は17%安となった。 果菜類は、入荷が前年並み、価格は11%安となった。 土物類は、入荷が3%増加し、価格は前年並みとなった。
果 実	5月期の果実の入荷状況は、本年が裏年の柑橘類、中旬以降の曇天の影響から作柄不良がみられたイチゴ類で入荷減となった。一方、産地在庫量が多く堅調な入荷となったりんご類、震災の影響から関東への出荷が減少する中で、関西市場へ入荷が集中したメロン類、スイカ類で入荷増となった。果実全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、柑橘類、イチゴ類では、入荷減により、単価高となった。りんご類、メロン類、スイカ類では、入荷増などにより単価安となった。果実全体では、前年同期を4%下回った。 品目別には、ふじりんご、アンデスメロン、大玉スイカが入荷増の単価安、甘夏柑、アールスメロン、イチゴが入荷減の単価高となった。 柑橘類は、入荷が20%減少し、価格は17%高となった。 りんご類は、入荷が5%増加し、価格は20%減となった。

	イチゴ類は、入荷が 8 %減少し、価格は 6 %高となった。 メロン類は、入荷が 3 4 %増加し、価格は 1 4 %減となった。 スイカ類は、入荷が 1 3 %増加し、価格は 4 %減となった。
--	---

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン 西洋ニンジン	長崎県，鹿児島県，千葉県を中心に，岡山県，香川県からの入荷。多くの産地で好天に恵まれて，作柄良好であった。入荷量は，前年入荷増であったことから前年同期並みとなった。 価格は，業務・加工需要の低迷により前年同期を３１％下回った。 徳島県を中心に，長崎県，鹿児島県，兵庫県，中国からの入荷。長崎県，鹿児島県からの入荷は，順調であったものの，主力の徳島県産で，低温，干ばつの影響から作柄が悪く，全体の入荷量は，前年同期を３％下回った。 価格は，入荷減により前年同期を８％上回った。
【葉菜類】 ハクサイ キャベツ ホウレンソウ レタス	茨城県を中心に，熊本県，群馬県，長崎県，和歌山県からの入荷。主力の茨城県産は，原発事故の影響から入荷減となったものの，熊本県産の入荷が，順調であったことから，全体の入荷量は前年同期並みとなった。 価格は，前年高値であったこと，また，業務・加工需要の低迷により前年同期を３６％下回った。 愛知県，兵庫県，京都府を中心に，神奈川県，鹿児島県からの入荷。各産地ともに好天に恵まれ，作柄が良好であったことから，入荷量は，前年同期を４％上回った。 価格は，前年高値であったことまた，業務・加工需要の低迷により前年同期を４６％下回った。 岐阜県，京都府，滋賀県を中心に福岡県，奈良県からの入荷。主力の岐阜県産で好天に恵まれ，作柄良好であったものの，例年，主力産地となる茨城県産が，原発事故の影響から入荷減となった。全体の入荷量は，前年同期を３％下回った。 価格は，前年同期並みとなった。 長野県，兵庫県を中心に，山梨県，長崎県，岡山県からの入荷。各産地ともに好天に恵まれ，作柄が良好であったことから，入荷量は，前年同期を１６％上回った。 価格は，前年高値であったことまた，業務・加工需要の低迷により前年同期を３５％下回った。

【果菜類】	
キュウリ	宮崎県、高知県、滋賀県を中心に、福岡県、愛媛県からの入荷。 多くの産地で上旬は、好天により順調な入荷であったが、中旬以降、曇天の影響から入荷減となった。全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、中旬以降の入荷減の影響から、前年同期を17%上回った。
ナス	高知県を中心に、岡山県、滋賀県、徳島県、奈良県からの入荷。 多くの産地で上旬は、好天により順調な入荷であったが、中旬以降、曇天の影響から入荷減となった。全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、前年が高値であったことから、前年同期を4%下回った。
トマト	熊本県を中心に、福岡県、三重県、京都府、奈良県からの入荷。 主力の熊本県産は、順調な入荷であったが、京都府産は、育苗期、定植時の低温の影響により作柄が悪く入荷減となった。全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、上旬の急激な気温上昇により、過熟などの品質不良が多発したことから前年同期を20%下回った。
ピーマン	宮崎県を中心に、高知県、茨城県、大分県からの入荷。 主力の宮崎県産、高知県産で、好天により順調な入荷であったが、中旬以降、曇天の影響からやや入荷が減少した。全体の入荷量は、前年同期を12%上回った。 価格は、入荷増であったこと、また前年が高値であったことから、前年同期を40%下回った。
【土物類】	
バレイショ (メーク含む)	長崎県を中心に、鹿児島県、熊本県、北海道、静岡県からの入荷。長崎県産、鹿児島県産で、低温の影響から生育の遅れがみられたが、前年が著しい入荷減であったことから、全体の入荷量は、前年同期を10%上回った。 価格は、全国的な品薄状態から、前年同期を24%上回った。
タマネギ	兵庫県、長崎県を中心に、佐賀県、北海道からの入荷。 新物の長崎県産では、好天に恵まれて、作柄良好であったことから入荷増となったものの、作柄が悪かった冷蔵物の北海道産の入荷が著しく少なく全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、前年高値であったことから、前年同期を28%下回った。
【その他野菜】	
生シイタケ	徳島県を中心に、広島県、北海道、岡山県、和歌山県からの入荷。多くの産地で、低温の影響から発生状況が悪く、全体の入荷

量は、前年同期を7%下回った。

価格は、上位等級を中心に不況による需要の低迷が続いており、単価安であった前年同期並みとなった。

主要品目（果実）	市況の概況
甘夏柑	福岡県，熊本県を中心に，愛媛県，広島県，和歌山県からの入荷。本年は，裏年で着果数が少ない上に，小玉傾向での入荷となったことから入荷量は，前年同期を２０％下回った。 価格は，入荷減により前年同期を２９％上回った。
ふじ （サン含む）	青森県からの入荷。 本年は，輸出の減少や着色不良の影響から産地での流通在庫が多い状況となっているため入荷量は，前年同期を１８％上回った。 価格は，入荷増であったこと，下位等級の入荷割合が高かったことから前年同期を２３％下回った。
イチゴ	福岡県，大分県，熊本県を中心に佐賀県，長崎県からの入荷。多くの産地で，中旬以降の天候不順の影響により作柄が悪く，入荷量は，前年同期を８％下回った。 価格は，入荷減により前年同期を６％上回った。
アールスメロン	静岡県，高知県を中心に，熊本県，宮崎県からの入荷。 静岡県で，栽培面積の減少がみられ，入荷量は，前年同期を６％下回った。 価格は，入荷減により前年同期を４％上回った。
アンデスメロン	熊本県を中心に茨城県からの入荷。 各産地とも，栽培面積の減少がみられるものの，震災の影響から，関東への出荷が減少する中で，関西市場への入荷が集中した。入荷量は，前年同期を５６％上回った。 価格は，入荷増により前年同期９％下回った。
大玉スイカ	熊本県を中心に，長崎県，愛知県からの入荷。 震災の影響から関東への出荷が減少する中で，関西市場への入荷が集中した。入荷量は，前年同期を１４％上回った。 価格は，入荷増により前年同期を４％下回った。